

令和8年度東京都立荒川工科高等学校定時制課程				学校経営計画		校長 長田 学
目指す学校	「進路指導重点主義」を教育理念とし、基礎的・基本的な知識・技術の習得とともに、ものづくりの楽しさを感じ、人として備えるべき規範意識を身に付けた魅力あふれる人材、社会の変化や技術の進歩を楽しむことができる創造力豊かな人材の育成を、TokyoP-TECH事業や地域・社会との連携も活用して行っていく。 【進路指導重点主義】①意欲的に進路選択ができる。②暮らしの中での課題に気付くことができる。③協働しながら目的を達成することができる。			(1) ミッション:どのような理由であろうとも、学び直す意欲をもった生徒に全力で寄り添うとともに、電気・電子関係の技術者として、産業社会を支える人材を育成する。また、ものづくりに関わる学力を身に付けさせ、免許・資格の取得や検定の合格を目指す。 (2) ビジョン:知・徳・体をバランスよく育ませるとともに、教職員がチーム一丸となって支援し、新しい時代を逞しく生きていく力を育成する学校を目指す。 (3) コミュニケーション:信頼で結ばれた良好な人間関係の構築を図るため、挨拶を励行し、すべての教育活動において協働・交流を図り、主体的・対話的で深い学びとなる学校を実現する。		
	(1) 学校経営	(2) 学習指導	(3) 進路指導	(4) 学校生活と健康づくり	(5) 特別活動	(6) 広報活動と地域連携
2 中期的 目標と 方策	組織的で継続的なTokyoP-TECH事業の着実な推進を行う。高いコンプライアンスを有する教職員集団を育成し、生徒・保護者の信頼を高める。 様々な学校課題を横断的に検討し、教育活動の改善や工夫・提案などを行う。 ICT機器等を活用し会議等の効率的運営と意思決定の迅速化を実施する。	工業等のカリキュラムにおいて、ものづくり教育を推進する。PBL（課題解決型学習）を活用した基礎・基本の徹底とともに、毎時の振り返り学習体制を確立する。 必要に応じて学び直しから発展的な学習までを段階的・継続的に取り組ませる。少人数授業、補講・補習を充実させることで、生徒にとって「分かる授業」を確実に実践する。	進路実現に向けて、「進路指導重点主義」の推進を図るとともに、TokyoP-TECH事業や地域・社会との連携で外部の力を積極的に活用したキャリア教育を推進し、生徒の自己進路選択能力の育成と進路実現に取り組む。学年・ハローワーク等との連携による就労支援を生徒の発達段階に合わせて、適切に実施するため、入学時から計画的なキャリア教育を実施する。	挨拶や身だしなみ、礼儀・規律を重んじた社会規範意識の向上を図り、将来に対して明るい希望を持たせる。 教育相談体制の充実に向けて、生徒情報の全体共有体制を図る。 生徒の健康づくり、安全管理、環境美化を徹底し、体力向上を図る。	部活動への加入を勧め、良好な人間関係を構築させるとともに、地域との関わり、企業等の外部機関との連携を通して、豊かな社会性を育てる。また、学校行事や校外学習での活動を通じて地位や友人との関りを大切に思う思いやりを養う。工業科で実施している資格取得など積極的に挑戦する意欲を高める。 TokyoP-TECH事業の一環として海外スタディツアーを実施し、グローバル人材の育成を推進する。	本校を志す生徒を増やすため、学校行事や部活動の様子を本校ホームページまたはSNS等を積極的に活用し、本校の魅力を情報発信する。また、地域連携を充実・開拓し、本校の魅力を伝えていく。 組織的・計画的な募集対策を実施する。
3 今年度の 取組目標 と方策	(1) 学校経営 ○ 学校経営・組織体制の改善・充実 (ア) グランドデザインを生徒の実態に即して、適宜見直すとともに、TokyoP-TECH事業を推進する。 (イ) いじめ・体罰根絶に向け、校内研修を実施する。 (ウ) 保護者や地域住民との接遇マナーに心がけ、信頼される学校づくりを推進する。 (エ) 都立学校情報セキュリティ対策基準等を遵守し、個人情報の管理を徹底する。 (オ) 全日制課程との協働体制を基盤に、教育活動の一層の充実を図る。 (カ) 都立学校開放事業や公開講座に取り組む、地域とのパートナーシップを築く。 (キ) 計画的な年休取得を推進し、全教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。 (ク) 学校運営連絡協議会の意見や評価結果を参考に、開かれた学校づくりの充実を図る。 (ケ) 新たな時代に適切に対応する教員の専門性及び授業力の向上を図る。 (コ) 教員一人一人の心身の健康保持、職務に対する誇りとやりがいをもって従事できる職場環境を整備し、学校教育の質の維持向上を図る。 (サ) 特別な支援を必要とする生徒へのきめ細かい対応の統一を図るため、情報共有を徹底する他、教員間の授業参観を実施し、指導上の困難さを全教職員で共有する。	(2) 学習指導の充実・工夫（学校評価アンケート生徒の授業満足度80%以上） (ア) 学習目標の明示と振り返りを徹底するとともに、「思考」させる授業を実践し、主体的・対話的に深い学びを実現化する。また、ものづくり教育を推進する。 (イ) 「読解力」を育むために、教科書をしっかりと読ませる授業を実践し、学びを振り返ることができる力を身に付けさせる。 (ウ) 「分かる授業」の実現に向け、放課後や長期休業期間等における補講・補習を計画的に実施し、基礎・基本の学力を確実に定着させる。 (エ) 多様な学習歴による学習面の「つまずき」を早期に見出し、支援するため、生徒の卒業中学校との連携や入学者選抜検査結果を活用する。 (オ) 教科「人間と社会」では、仲間や地域との交流・協働を通して、より良い生き方を主体的に選択し、行動する力を育成するとともに、ボランティア活動等の体験から、自発的な貢献力を養う。 (カ) ICT機器を積極的に活用し、生徒の興味・関心を高める。 (キ) 読書週間を設定し、本に親しむ態度や本を読む習慣を身に付けさせる。 (ク) 外部機関と連携し、主権者教育を充実させる。 (ケ) 課題解決型学習（PBL）を推進し、授業改善を図るとともに、生徒の学習成果の発表の場を確保する。	(3) 進路指導の充実・工夫（学校評価アンケート生徒の進路指導満足度80%以上） (ア) 社会人として自立に必要な力と自分らしい生き方を実現させるため、TokyoP-TECH事業を活用し、組織的・計画的なキャリア教育を実施する。 (イ) ハローワーク等と連携し、社会人として求められるマナーやコミュニケーション能力を高める。 (ウ) 将来の職業について考える機会としたインターンシップ及び企業見学を適宜実施する。 (エ) 免許・資格の取得、各種検定の合格を目指す指導の充実を図る。	(4) 生活指導の充実・工夫（学校評価アンケート生徒の生活指導満足度80%以上） (ア) 全教職員の共通理解を基盤に生徒の規範意識向上に向けた指導の徹底を図る。 (イ) ホームルームを充実させ、SNSによるトラブルを未然に防ぐ。 (ウ) 警察署や外部団体との連携を図り、高校生が事件や事故に巻き込まれないための正しい倫理観を身に付ける。 (エ) 保護者との信頼を基盤に、粘り強い指導を積み重ね、遅刻・欠席のない生活習慣を身につけさせる。 オ 健康づくりの啓発 (ア) 新型コロナウイルス感染拡大防止のガイドラインに基づいた対策をとる。 (イ) 学校保健計画に基づき健康づくりに関する取組を組織的・計画的に推進する。 (ウ) 生徒の健康把握に努め、個々の生徒に応じて適切に指導する。 (エ) 食物アレルギー（エビベン）に對する生徒情報の共有と緊急時体制の整備 (オ) 体育科と連携し、体力測定の結果等を活用した生徒の体力向上と健康指導及び支援を行う。 (カ) 保護者と連携し、生徒の健全育成を図る。 (キ) スクールカウンセラーを中心とした教育相談体制の確立及び教職員との連携強化を図っていく。 (ク) 保護者との連携を十分に図り、健康の保持増進を目的とした食育を推進し、給食の喫食率向上を図る。	(5) 特別活動・部活動の充実・工夫 (ア) スポーツ教室・校外学習・特別活動や部活動への積極的な参加を勧め、帰属意識及び集団の一員としての自覚を高める。 (部活動加入率80%以上) (イ) 教科「人間と社会」において、主体的なボランティア活動への参加意識を醸成し、自己肯定感を高める教育を推進する。 (ウ) 地域と連携した事業を実施し、積極的に地域に貢献を行う。 (エ) 海外スタディツアーの実施や様々な教育活動において、国際的に通用する人材を育成する。	(6) 生徒募集活動・学校広報活動の充実・工夫 (ア) 学科の特色を分かりやすく説明した学校案内を作成し、受検生徒とその保護者または中学校へ配布する。 (イ) 学校行事や部活動の様子を学校ホームページで定期的に情報発信する。 (ウ) 12月に体験入学を実施し、学校PRの一層の拡大を図る。 (エ) 荒川区による小学生対象の工作教室を実施する。 (オ) 地元中学校、夜間中学校訪問や地域のスクールソーシャルワーカー等の地域と連携した募集活動を実施する。

3 今年度の 取組目標と方策 (2) 重点目標と方策	(1) 学校経営	(2) 学習指導			(3) 進路指導			(4) 学校生活と健康づくり			(5) 特別活動			(6) 広報活動と地域連携					
	○ 学校課題解決に向けたチーム力の強化			○ 学習課題の把握と授業力の向上			○ キャリア教育の充実と 免許・資格の取得・検定合格			○ 安全教育の推進 安全教育推進校としての実績を生かし、特色ある 避難訓練やセーフティ教室を実施する。			○ 特別活動・部活動の活性化			○ 専門高校の魅力を発信する 広報活動と生徒募集対策			
	重点目標	方策及び 具体的な取組	数値目標	重点目標	方策及び 具体的な取組	数値目標	重点目標	方策及び 具体的な取組	数値目標	重点目標	方策及び 具体的な取組	数値目標	重点目標	方策及び 具体的な取組	数値目標	重点目標	方策及び 具体的な取組	数値目標	
	課題解決に 向けたチー ム力の向上 とチーム効 力感の情勢	服務事故の防止や 教育課題等を目的 とした校内研修	年3回以上	生徒の基礎 学力を把握 と中途退学 者の未然防 止	個に応じてきめ細 かな指導を実施す る。		生徒一人一 人の適性 に応じた進 路希望の実 現	生徒一人一人の進 路希望を把握す る。	進路決定率 100%	生活指導の 充実	いじめ防止・自殺防 止・生命の尊重・性 暴力防止・交通安全 教育を目的とした全 校集会	年3回以上	学校行事の 充実	行事内容を精選し、計 画的に実施して、体 力向上にも努める。	参加率 90%以上	学校の魅力 を効果的に 発信する広 報活動の推 進と生徒募 集対策の充 実	全教員体制で実施す る中学校訪問	50校以上	
		個人情報の管理徹 底を目的とした校 内研修	年2回以上		1・2学年の数学・ 理科、1学年 の電気基礎は少 人数指導として学 力の定着を図る。	学力不振に よる中途退 学者0		個々の生徒への適 切な就労支援	就職決定率 100%		社会人として求め られるマナーやコ ミュニケーション 能力を高める。			各ボランティア活動へ 積極的に参加させ、自 発的な貢献力を育成す る。	年3回以上		ホームページからの 情報発信	年50回以上	
		全日制課程との協 働体制を推進する 各種連絡会の実施	随時		放課後学習・長期 休業中の補習・補 講を計画的に実施 する。	原級留置者 0		インターンシップ への積極的な参加	1名以上 参加			SNS使用について の研修会		年3回以上	障がい者理 解		障がい者スポーツ選手 の招聘	年1回以上	学校説明会
	図書館環境 の維持管理	図書館の利用促進 を図る読書週間の 設定	不読率 50%以下	授業改善の 組織体制を 構築	始業前H Rの実施 による出席率の向 上	出席率 90%以上	国家資格の 合格	電気工事士（第一 種、第二種）	3名以上	基本的生活 習慣の確立	登校時の校門指導 （皆勤生徒の増加）	各クラス 3人以上	部活動の活 性化	各種競技大会・コンテス ト等への積極的な参加を 促し、入賞体験等を通じて 自己肯定感や達成感を 味わわせる。	各部活動年 2回以上	体験入学	年5回以上		
	ライブ・ ワーク・バ ランスの推 進と業務の 効率化	会議のペーパーレ ス化を図り、会議 運営の効率化を図 り開催時間の短縮	月在校60 時間超えの 教員ゼロ						特殊無線技士		3名以上	結り強い遅刻指導		年間遅刻延べ 回数750回 以下			加入率 70%以上	夏休み親子教室	年1回以上
		開庁日の設定や計 画的な年休取得				教師道場や研究員 を活用した研究授 業や校内研修の実 施		年2回以上	工事担任者（第二級デジ タル通信、第二級アナログ 通信等）		3名以上	グループエンカウ ターの実施		年2回以上	スクールカウ ンセラーと連携した校内 研修	年2回以上	生徒対象の熱中症防止 研修等を実施する。	重大事故 ゼロ	中学校の教職員や塾 教員を対象にした学 校説明会・見学会
				より良い生 き方を主 体的に選 択する行 動力の育 成	地域や関係機関 と連携し、教科「人 間と社会」の指導 内容・方法を工夫 改善	成果発表会 の実施	各種検定	危険物取扱者（丙 種、乙種）	2名以上	安全教育的 の推進と中 途退学者の 未然防止	外部関係機関と連 携し、セーフティ教 室、薬物乱用防止教 室、交通安全教室を 行い、非行防止や犯 罪被害の防止に取 組む。	中途退学者 0	生涯にわた る心身の健 康の保持増 進	海外スタディーツアー の実施により海外文 化交流を強化する	年間1回	「荒工通信」を発 行し、保護者地域へ 学校魅力を発信す る。	年6回以上		
					教科横断的に各教 科の授業で図書館 を活用し、本に親 しむ習慣を身に付 ける。	不読率を 50%以下 に付ける。		計算技術検定・情 報技術検定	10名以上								ドリームフェスタ・ 都立高校EXPO・TIPS フォーラム・匠の祭 典	各1回	
					日本語が不自由な 生徒への理解を深 め個に応じた指導 の充実を図る	随時		ジュニアマイ スター顕彰制度	1名以上										